

経営理念

太陽誘電の経営理念

従業員の幸福 地域社会への貢献 株主に対する配当責任

太陽誘電の創業者・佐藤彦八は、戦前からセラミック素材の研究に取り組んでいました。

「素材の開発から出発して製品化を行う」という技術屋としての信条をもち、酸化チタン磁器コンデンサの開発・製品化に取り組み、1950年に太陽誘電株式会社を創業しました。また彼には、人間にとって一番価値のあるものは人間の愛情であるという、人としての信条がありました。従業員とその家族が幸福に豊かな生活ができるようにすることで企業の社会性が高まり、文化の発展に貢献できるとし、3つの経営理念を掲げました。

創業者のこの信条・理念は、今も太陽誘電グループの根本精神として生き続けています。



創業者 佐藤彦八

「太陽誘電」社名の由来

創業者である佐藤彦八は会社設立前から誘電体セラミックスを研究していました。そこで、新しく設立する会社の主力事業も誘電体を利用したものにしたいと考えていたため、社名は誘電体から「誘電」をとり、それに「太陽」を加えて、「太陽誘電株式会社」と決めました。太陽は「明るくて温かみがある」存在です。太陽のように、「世の中を照らすような会社になりたい」、「大きなエネルギーを持った会社になりたい」という願いを社名に込めています。

